

どんな仕組みや配慮があると 見えない人の障害がなくなるの？

- 聞くこと・触ることから情報が伝わる
仕組みがあること
- バリアフリー
- ユニバーサルデザイン
- 自分なりの工夫
- 「信号が青になりましたよ」や
「席が空いていますよ」と
周囲の人のちょっとした声かけ
(配慮)があること
などなど…

ここが今までの啓発研修と違います。

	従来の啓発	当法人の福祉講座
焦点	身体機能	差別や不平等
基礎となる 障害のモデル	障害の個人モデル	障害の社会モデル
目的	行為の転換	障害理解の転換
研修実施者	医療や福祉の 専門家	障害者本人
体に障害があ る人への見方	庇護する対象 として見る	一人の人間として 尊重

当法人の福祉講座は障害平等研修を参考にしています

だれもが安心して
すごせる社会に

きょうせい
共生

みんながって
みんないい

はいりょ
配慮

いろいろな人とともに
暮らせるステキな心をも
った人になってね!

特定非営利活動法人
神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク
(通称：View-Net 神奈川)
〒231-0028
横浜市中区翁町2-8-5 第一東里ビル302
TEL 090-6940-2823
URL <http://www.view-net.org>
E-mail jimukyoku@view-net.org

「障害」を人権の視点でとらえる
福祉講座を提供します。



視覚障害当事者講師を
派遣します





視覚障害当事者が 「視覚障害」を題材として、

今までは、困ることが起こる原因は個人の心身機能の欠損にあり、その解決方法は個人やその家族が全面的に担うものと考えられてきました(個人モデルでの考え方)。

しかし、困ること(障害)が起こる原因は、社会が多様な人を受け入れない仕組みであるから起こることであり、その解決方法は社会のあり方が多様性を受け入れる社会に変革していくことであり、障害を無くすのは社会が担うことであると考えることが重要だとされるようになってきました(社会モデルでの考え方)。



「障害とは何か」について 考える時間を提供します。

社会モデルの考え方は、普遍的なものであり、心身機能の障害に関わらず、自分たちの生活においても困ること(障害)は存在し、それは一人ひとりが作り出したり無くしたりすることができることに気づく機会になります。

その延長線上に、だれもが暮らしやすい社会を考えられる基盤となる時間を提供します。



個人モデルから社会モデルへ 視点が変われば 講座後の感想が変わります



小学生の感想の変化

～個人モデルで実施していたときの感想～

アイマスク体験では暗くて怖くて何もできなかったです。目が見えないとたいへんなんだとわかりました。これからは目が不自由な人に会ったらやさしく助けてあげたいと思いました。

～社会モデルで実施した講座後の感想～

今日のお話で目が不自由になっても普通に暮らせるのがわかって安心しました。もし僕が目が見えなくなっても大丈夫なんだと思いました。体が不自由な人だけでなく、低学年・高学年の人やみんなにも障害になることを作ってはいけないと思うので、作らないように配慮していきたいと思います。

社会モデルの考え方を知った教員の感想

人権教育、社会福祉をどのように伝えていくのかを考えさせて頂く良い機会となりました。障害者はたいへん・かわいそう、だから助ける、という感想を持たせるのではなく、どのようにすれば障害をクリアできるか、障害を作らないでいられるかを考えられる教育でなければならないと感じました。身近なものとして考える大切さを知りました。

障害がある人を「かわいそう」手伝って「あげる」と上から目線ではなく、単に困っている人を助ける、障害は個性として受け止めることのできる子どもたちを育てていかなければと思いました。

	「障害の個人モデル」	「障害の社会モデル」
人	健常を正常とする	多様な個性を持つのが当たり前とする
障害の原因	個人	社会
目標	健常者に近づくこと	個人に応じた合理的配慮が提供されることが当たり前となること
価値	「できる」ことを当たり前とする 能力主義	多様性を尊重する平等社会
解決	健常者になること	社会が作り出している「障害」の除去
解決の過程	個人の機能障害の回復	法律・条令の整備による制度の構築と 建設的対話による合理的配慮を 実現させていくための具体的な取り組み

『出典:久野研二(2018)「社会の障害を見つけよう:一人ひとりが主役の障害平等研修」(現代書館)をもとに修正』